超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成

北信がんプロ キックオフミーティング

文部科学省　平成29年度大学教育再生戦略費　多様なニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン

今年度スタートの、文部科学省の「多様なニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン」に採択された、金沢大学など北陸3県と長野県の6大学による「北信がんプロ」のキックオフミーティングは9月18日、金沢市のホテル金沢で開かれました。参加大学の担当教授が、各大学の教育コースの内容や、取り組みの目標を紹介しました。

冒頭、北信がんプロ統括コーディネーターを務める金沢大学附属病院がんセンター教授、矢野聖二氏が概要を説明しました。

文科省は、今年度から5年間にわたる、第3期のがんプロのテーマを「多様な新ニーズへの対応」としています。

期待される成果としては▽がんゲノム医療従事者の育成▽希少がん、小児がんに対応できる医療人材の育成▽ライフステージに応じたがん対策を推進する人材の養成―の3つを示しました。

公募には全国から80大学による13拠点の応募がありました。第1期・2期で、金沢大学など5大学で活動した「北陸がんプロ」は今回、信州大学が加わった「北信がんプロ」として応募し、採択されました。

特徴ある症例をデータベース化

北信がんプロは、第2期までの実績を基に、「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成」を事業テーマとしています。

総務省の統計によると、15歳から64歳までのいわゆる生産人口は、北信4県が2015年時点で57％なのに対し、全国平均は2030年になって、同等の58・1％まで下がるとされています。つまり、生産人口の減少＝高齢化が、4県では全国と比べて15年以上、進んでいると考えられるのです。

北信がんプロは4県を「超少子高齢化地域」ととらえて、特徴のある症例のデータベース化などを進めます。地域におけるがん対策に結びつく提案を通して、将来のがん医療人育成モデルを示していきます。

連携大学の実績を相互補完する課程

本科生コース（大学院）来年4月受け入れへ

実施する教育コースは、各連携大学がこれまでにあげてきた実績をいかす、相互補完的な内容としています。

がん教育改革・がん研究者養成を目指す本科生コースには10コース、地域がん医療のためのインテンシブ（集中講義）は9コースを設定しました。講義はコンピューターやインターネットによるeラーニング、演習はテレビ会議システムを用います。

今年度は、このコースの準備期間とし、本科生コースは来年4月から受け入れを開始します。インテンシブは今年10月、一部は来年4月に受け入れ開始の予定です。

5年間で本科生コースは91名、インテンシブコースは264名を受け入れ目標としています。

ごあいさつ

金沢大学
山崎光悦学長

文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」において、これまでの第1期・2期では、金沢大学を中心に富山大学、福井大学と、金沢医科大学、石川県立看護大学による「北陸がんプロ」として活動しました。今年度からの第3期では、新たに長野県の信州大学に参加いただき、「北信がんプロ」として取り組むことになりました。

北信がんプロの運営協議会には地域すべてのがん診療連携拠点病院、医師会、行政が参加し、協力体制が整っていること、患者会とも連携することが、がんプロ養成推進委員会でも高く評価されています。これからの5年間、北信がんプロ事業が実りある結果となるようご支援をお願いします。

北信がんプロの教育コース

本科生コース（大学院） 2017年4月受け入れ開始

	教育コース	対象
金沢大学	先端的個別化医療コース	医師・歯科医師
	がん個別化薬物療法薬剤師リーダーコース	薬剤師
	個別化医療を担う先端技術・医学物理人材育成コース	医学物理士
信州大学	ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース	医師
	がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース	多職種
富山大学	高齢がん患者対策専門コース	医師
	個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース	薬剤師
福井大学	地域がん専門医養成コース	医師
金沢医科大学	がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コース	医師
石川県立看護大学	がんライフステージコース	看護師

インテンシブコース 2017年10月頃より入れ開始（一部は2018年4月）

	教育コース	対象
金沢大学	がんゲノム医療生涯教育コース	医師・歯科医師
	がん個別化薬物療法実践基礎医コース	薬剤師
富山大学	高齢がん患者対策専門コース	医師
	個別化医療で支えることができる専門的薬剤師養成コース	薬剤師
	在宅がん緩和リハビリテーションコース	看護師
福井大学	在宅栄養管理コース	医師等
	在宅緩和医療コース	医師等
金沢医科大学	がん先守的治療医養成コース	医師
石川県立看護大学	がんライフケアコース	看護師

国立がん研究センター東病院
大津院長が特別講演

特別講演する大津敦氏

各大学のコース紹介に続き、国立がん研究センター東病院院長、大津敦氏が「わが国からのがん医薬品開発を目指した取り組み」の演題で特別講演しました。

大津氏は、わが国のがん医薬品開発の現状について、がん分子標的薬などの新薬開発のためには、海外に負けないスピードが求められるとして、産官学の連携で、人材の育成・流動性を確保することが必要と指摘しました。

ゲノム医療体制を構築

信州大学包括的がん治療学教授　小泉 知展（にいずみ とものぶ）氏

私たちは第2期ながんプロで、腫瘍内科、放射線治療、緩和ケアの診療体制を作り、原発不明がんや、希少がんの診療体制を構築しました。

今年9月にはクリニカルシーケンス（がん関連遺伝子の変異を解析する検査）を開始し、ゲノム医療推進の体制を整備しています。

遺伝子医療研究センターでは、家族性腫瘍や遺伝性卵巣乳がん症候群の診療・遺伝子解析を行い、カウンセリングを行っています。

これらの実績に基づき、本学は北信がんプロで、2つの本科生コースを設置しました。「ゲノム医療に精通したがん治療医育成コース」では、希少がんの診療経験とゲノム解析、それからクリニカルシーケンスの実施、解析ができ、小児から高齢者まで、幅広い年代の患者を診療できるとともに、遺伝性のがんやゲノム異常の解析もできる医療人の育成を目的としています。

「がん診療に詳しい認定遺伝カウンセラー養成コース」では、がんの遺伝に関する認定遺伝カウンセラー育成を図っていきます。

高齢者対策にスポット

富山大学附属病院臨床腫瘍部教授　林（はやし） 龍二（りゅうじ）氏

がんは主に高齢者の病気であるわけですが、高齢者にスポットを当てた研究が少ないのも現状です。本学は高齢化が進む北陸地域の特色を生かした研究・教育を提示したいと考えています。

医学系の本科生コースでは、「高齢がん患者対策専門コース」、薬学系の方では「高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース」を設けました。

インテンシブにも同じコースを設けるとともに、看護師を対象とした「在宅がん緩和リハビリテーションコース」を開設します。

医学系の本科生コースは毎年4名の登録を目標としていますが、そのうち2名は学部学生を対象とします。

薬学系コースではゲノム医療演習として、がん細胞生物学教授による、最新の分子標的治療薬の講義を行います。在宅医療演習では、超高齢患者への対応で必要となる、チャレンジングな演習を行う計画で、がん治療へ深い職責を果たせる薬剤師を育てます。

症例データ集めて研究

福井大学がん診療推進センター教授　片山（かたやま） 寛次（かんじ）氏

福井県のがんの現状として、5大がん（肺、大腸、胃、乳、子宮）の良質な医療を安全、適正に提供するための診療計画表「地域連携クリティカルパス」の使用が全国的にみて多いことが挙げられます。

本学は、この特色に対応できる地域がん専門医の育成を課題と位置づけ、本科生コースに設定しました。

インテンシブでは「在宅緩和医療コース」「在宅栄養管理コース」を開設します。痛みの緩和や栄養、高齢者、小児のがん、さらに心の問題に関する部門で、充実した教育を実施する計画です。

その他、希少がん対策として、北陸3県の統計を取って、特徴的な治療を行っていきます。特に希少がんである腹膜偽粘液腫について、本学は全国的に症例を集めており、さらに他大学からも、より詳しいデータをいただいて、研究に活用します。

福井県は、テレビ会議システム導入が石川、富山ほどに進んでおりませんので、北信がんプロと合わせて、拠点病院にシステムを整備いただき、事例検討会などを進めたいと考えています。

研究成果を地域に還元

薬剤師のリーダー育成

金沢大学薬学系教授　松下（まつした） 良（りょう）氏

第1期・2期がんプロでは、金沢大学、富山大学で薬剤師に関するプログラムを共同で運営しました。満足度は高かったのですが、一方で個々のニーズに合わない面もありました。第3期の北信がんプロでは両大学で個別の本科生コースを設けました。

本学は、リーダーたる薬剤師を養成することを、主眼としました。分子標的治療の普及に伴い、新たな副作用のケアが薬剤師には求められています。また、在宅医療では実践的な薬物療法に関与していくことが必要です。

本科生コースに対しては、専門的な薬の知識等を学べる内容とし、一般の薬剤師を対象とするインテンシブコースでは病院・薬局勤務の薬剤師に、より実践的な能力を高めていただけるコースとしました。

薬剤師には医師、看護師との連携が強く求められています。石川県立看護大学から事例検討会開催の話をいただきましたので、薬剤師、看護師それぞれの視点から、新しい多職種連携の在り方を模索する場を設けたいとも考えています。

先端技術扱える人材を

金沢大学対癌病院がんセンター教授　矢野（やの） 聖二（せいじ）氏

本学は、医師・歯科医師、薬剤師、医学物理士対象の3コースを本科生に、医師・歯科医師と薬剤師対象の2コースをインテンシブに設けます。私からは医師・歯科医師対象のコースを中心に紹介します。

私たちはゲノム医療をメインテーマとして掲げており、本科コースの「先端的個別化医療コース」では、ゲノム解析により分子標的の薬などの最適化使用を目指す先端的研究を理解し、遺伝子解析に基づく最適の集学的個別化医療を実践できる医師・歯科医師の養成を掲げています。

医療技術・医療物理人材育成コースは、基礎的・臨床的がん診療を理解し、より高度化した放射線治療において、個別化医療を目指す臨床研究を実践できる人材を養成します。本学保健学類の教員を中心に立ち上げていただきます。

心のケア担う看護師に

石川県立看護大学成人看護学領域教授　牧野（まきの） 智恵（ともえ）氏

本学は今回のがんプロ本科生では「がんライフステージコース」、インテンシブでは「がんライフケアコース」を開設します。近年、AYA世代（思春期・若年成年）の女性で子宮頸がんが増えていることもあり、予防や治療と平行して、看護職者による心のケアが重要ではないかと考えております。

本科生コースは、がん患者のQOL（生活の質）の向上を目的に、小児からAYA世代、高齢者までの各ライフステージにおいて、治療・療養など全般に卓越した看護を提供できるがん看護専門看護師を育てます。富山大学・福井大学の専門看護師コースと協力し、科目の充実を図っていきたいと思っております。

インテンシブでは、これまでのテレビ会議システムを用いた「ライフステージ事例検討会」を、看護師だけでなく医師、医療従事者を対象とした内容に発展させて実施する予定です。

特に今年度は金沢大学の薬学類とも協力して、看護学のみならず、医学、薬学の視点から、がん患者支援について検討していく予定です。

願いに沿える医師養成

金沢医科大学腫瘍内科学教授　元雄（もとお） 良治（はるはる）氏

私たちは、希少がんを含むがん患者を、臓器横断的に診療できる専門家の養成を目指しています。その目的のため、北信がんプロでは本科生に「がん専門医リーダー養成コース」、インテンシブでは「集学的治療医養成コース」を設置しました。

本学は再生医療センターで、希少がんの免疫療法・再生医療に取り組んでいます。また、大学病院の集学的医療部遺伝子医療センターでは、遺伝カウンセリングを中心に独自の教育内容を有しております。

腫瘍内科では、肉腫・神経内分泌腫瘍・原発不明がんなどの診療・教育・研究に携わっているのも特色です。

私たちが養成すべき人材像は、患者の思いに寄り添い、最新のエビデンス（医学的根拠）と情報を集め、患者と家族の希望をかなえるよう努力できる専門医師です。本学の教育プログラム・コース修了者が、各専門分野の専門医・認定医などの資格を取得し、地域を問わず、広く教育職・研究職・第一線の診療医として活躍できることを構想しています。

北信がんプロホームページ　gan-pro.net